

早稲田社会学会ニュース 第33号

2009年4月18日発行

早稲田社会学会事務局

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 社会学研究室内

Tel: 03-5286-3742

E-mail: socio-office@list.waseda.jp

URL: <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 第61回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ
2. 本年度大会シンポジウムについて
3. 大会一般報告および『社会学年誌』第51号投稿の募集
4. 2009年度研究助成の募集
5. 第30回研究例会開催のお知らせ
6. 入退会者のお知らせ
7. 学会費納入のお願い

1. 第61回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ

本年度の早稲田社会学会大会および総会が、2009年7月4日(土)に、早稲田大学文学学術院(戸山キャンパス)において開催されます。シンポジウムのテーマは「若者をめぐる困難」です。詳細につきましては次項「本年度大会シンポジウムについて」をご参照ください。大会会場、ならびに一般報告などを含むプログラムの詳細につきましては、6月中旬にお知らせする予定です。

事務局では大会での一般報告を募集いたします。報告を希望される方は、第3項をご参照のうえ、事務局宛までお申込みください。

2. 本年度大会シンポジウムについて

テーマ: 「若者をめぐる困難」

報告者: 浅野智彦(東京学芸大学)、本田由紀(東京大学)、大隈俊弥(厚生労働省職業安定局)

討論者: 小島宏(早稲田大学)、園田茂人(東京大学)

司会者: 木村好美(早稲田大学)

<趣旨説明>

何を考えているか分からない、すぐキレル…若者による凶悪犯罪が起きる度に、「何となく」若者バッシングが展開されてきた。この確たる根拠やデータの裏づけも無い若者への(不当な)批判・非難に対し、「若者」をめぐる状況や「若者論」を冷静に検討しようという動きが、近年ようやく見られるようになってきている。特にフリーターをはじめとした非正規雇用、ネットカフェ難民など、就労や貧困をめぐる問題については、若者の「就労意欲」が問題なのではなく、バブル景気崩壊後の厳しい雇用環境が問題なのだ、ということが「ロストジェネレーション」という言葉とともに広く知られるようになりつつある。

そして現在、2000年初頭からの景気回復もつかの間、米国におけるサブプライムローン問題に端を発した世界金融危機が若者を直撃し、「就職氷河期」が再来している。

このような状況のなか、本シンポジウムは「若者をめぐる困難」をテーマに、浅野智彦先生より「若者論」がいかに展開されてきたのかについて、本田由紀先生より「若者の雇用と教育」について、さらに行政の立場

からみた「若者の雇用」について大隈俊弥・厚生労働省職業安定局若年者雇用対策室長にご報告頂く。先生方のご報告より「現在の若者をめぐる（困難な）状況」を確認した後、小島宏先生、園田茂人先生にコメントを頂き、若者についてのみならず、日本社会の未来について議論を深めたい。

（文責：研究活動委員 木村好美）

3. 大会一般報告および『社会学年誌』第51号投稿の募集

申し込みを希望される方は、以下の項目をA4の用紙1枚に記入し、事務局宛てに郵送またはE-mailにてお送りください。両方に申し込む場合には、それぞれ別の用紙で申し込みをお願いいたします。

大会一般報告、または『社会学年誌』第51号投稿、のいずれかを明記してください

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス
- (4) 題目（副題を別として25字程度まで）
- (5) 内容概略（200～400字程度）

大会報告：申し込み締め切りは、5月19日（消印有効）です。

『社会学年誌』投稿：申し込み締め切りは、6月30日（消印有効）です。

『社会学年誌』原稿の提出締め切りは、8月末日（消印有効、郵送のみ受付）です。申込書提出後の題目、内容の大幅な変更は認められませんのでご注意ください。また、申込後に投稿を辞退なさる場合は、8月15日までにその旨を必ずご連絡下さい。なお、分量、書式その他、投稿規定については、『社会学年誌』の最新号（第50号）をご参照ください。

現在早稲田社会学会会員でない方で発表もしくは投稿をご希望の方は、上記の申込書とあわせて入会申込書をお送り下さい。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会HPの「入会案内」をご覧ください。事務局にお問い合わせください。

4. 2009年度研究助成の募集

これまでに当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重して、次の要項により会員各位の研究活動を助成いたします。

助成対象：早稲田社会学会の発展に寄与する研究活動

助成額：1件30万円程度を上限とする

助成を希望される方は事務局までご連絡ください。追って「申請書用紙」をお送りいたします。申請書の提出締め切りは、5月19日（消印有効、郵送のみ受付）です。なお、「早稲田社会学会研究助成取り扱い要領」の規定により、「助成の直前の年度まで継続して2年以上の会員歴がある」方が対象となります。また、研究助成を受けられた方には、学会大会一般報告（または学会誌投稿）により、その成果を報告していただくようお願いいたします。

また、この趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付についてのお問い合わせは事務局までご連絡ください。

5. 第30回研究例会開催のお知らせ

第30回（2009年度第1回）研究例会が下記の要領で開催されます。多数のご参加をお待ちしております。

テーマ：「大学生の就職活動 ― 一文生の就職活動調査より ―」

日時：2009年5月23日（土） 14:00-17:00

会場：早稲田大学文学部（戸山キャンパス）39号館6階第七会議室

司会者：池田祥英（早稲田大学）

報告者および題目：

西尾昌樹（早稲田大学キャリアセンター） 「大学生の就職状況」

岡口瞳美、久我龍太郎（早稲田大学文学部生） 「一文生の進路と就職活動」

原科達也（早稲田大学大学院） 「大学生生活の過ごし方と就職活動」

関水徹平（早稲田大学） 「家族と進路」

<趣旨説明>

今回の研究例会では、本年度7月に開催される第61回早稲田社会学会大会の「若者をめぐる困難」と題されたシンポジウムに先立ち、このテーマに即して、早稲田大学の学生が直面している就職をめぐる困難について報告していく予定である。

最初に、早稲田大学キャリアセンターから西尾昌樹氏をお招きし、「大学生の就職状況」というタイトルで就職活動をした学生が直面した困難（急激な景気の冷え込みによる内定取り消しや内定者の自宅待機の現状など）についての実態を報告していただく。

その後、昨年度の早稲田大学文学部社会学コースの調査演習においておこなわれた「大学生生活と就職に関する調査」の成果について論じていく予定である。久我龍太郎・岡口瞳美は、調査を実際に行った学部学生の視点から「一文生の進路と就職活動」というタイトルで概略的な報告をする。続いて原科達也が学生の日常的な取り組みと就職活動との関係を中心に「大学生生活の過ごし方と就職活動」というタイトルで報告し、最後に関水徹平が両親の社会的地位が学生の進路決定に与える影響について「家族と進路」というタイトルで報告する予定である。

これらの報告および討論を通じて、若者が直面している困難について理解を深め、そして7月の大会シンポジウムに向け、有意義な研究例会としていきたい。

（文責：早稲田大学 原科達也）

6. 入退会者のお知らせ

2008年12月13日の理事会において次の1名の入会が承認されました。

日高洋子氏（早稲田大学文化構想学部）

7. 学会費納入のお願い

今年度の学会費を、同封の「郵便振替払込書」にてお振り込みくださいますようお願い申し上げます（今年度分をすでに納入されている方および名誉会員の方宛てには、払込書は同封しておりません）。

年会費： 一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号： 00100-3-38020

加入者名： 早稲田社会学会

新年度にあたり、ご所属・ご連絡先等に変更がありましたら、その旨を通信欄にお書き添えください。

会費を3年分以上滞納されますと、2000年7月8日の総会決議および2000年12月16日の理事会決議にもとづき、会員資格の一部が停止されます（次の3つの権利が失われます。①学会大会で報告すること②『社会学年誌』へ投稿すること③『社会学年誌』の配布を受けること）のでご注意ください。

以上